

「新時代に対応した高等学校改革支援事業（普通科改革支援事業）」

普通科新学科通信

No.17

令和5年10月31日発行

発行 探究科設置準備委員会

10月16日（月）に開催しました講演会の概要を報告をいたします。

『講演概要』

本校コンソーシアムのサポーターメンバーである、国立民族学博物館から平井京之介先生に大阪から来釧していただき、「はじめての文化人類学―探究活動を楽しむために！」と題して講演をしていただきました。

平井先生は大学卒業後、民間企業に就職しましたが、文化人類学を学ぶために25歳の時に退職して、英国に留学しロンドン大学経済政治学院でPh. D. 取得、1995年から国立民族学博物館・総合研究大学院大学で教授として研究活動をされています。講演は、「文化人類学とは何か」「わたしの探究活動」「探究活動に向けて」の3部構成でお話が進みました。

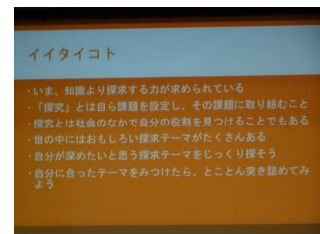
「文化人類学とは何か」では、文化人類学の研究対象、研究方法としてのフィールドワーク、研究テーマや質的研究・量的研究についての説明がありました。



「わたしの探究活動」では、平井先生が実施したフィールドワークの中から事例（失敗例も含めて）を説明していただきました。タイの日系工場では、現地の従業員と仕事をしたり、ラオスでは仏教僧の研究ということでご自身も出家して僧侶と生活・修行を共にした体験を交えてのお話でした。

「探究活動に向けて」では、探究活動の進め方について①テーマを探す、②問いをつくる、③取材する、④情報収集する、⑤整理分類する（KJ法）、⑥その他 の順に事例を挙げて、詳しく解説してくださいました。

最後に「知識より、知識をどのように使うか、自ら学びを進める力が重視される」「探究とは、社会の中で自分の役割を見つけ、自分らしい生き方を実現する力を養うこと」とのメッセージを頂きました。



『講演終了後に集約した生徒の感想』

- ・ 周囲に興味を持ち、自ら課題を見つけ、主体的に問題を解決することがこれからの社会のために必要だと感じた。課題解決する力、課題解決に必要な情報収集力、情報を整理分析して答えを出す力を探究活動を通して身につけていきたい。
- ・ 日常生活の中で積極的に疑問に思ったことを調べようと思った。インターネットで調べるのが主流になってきているが、図書館や新聞、雑誌、事典、概説書、入門書、学術論文など調べる手段はいろいろあることを講演で学ぶ事ができたので、いろいろな方法で調べていこうと思った。
- ・ 私は将来文化人類学を学びたいと考えているため、実際にどのような活動をされているのかを詳しく聞くことができてとても良い時間になりました。そもそも文化人類学とはどういった学問なのか。また、どのようにしてフィールドワークを進めていくのかということを知ることができて、改めて自分が何をしたいのかを考えることができました。
- ・ 探究活動を行う上で、取材や様々な文献を参考にすることがあるがその際に個人や団体の情報を勝手に流出したり、取材相手に対して失礼な態度を取らない、文献の出典明示を必ず行うなど、日常生活でも気をつけなければならないことを、今回の講演で改めて学ぶ事ができた。また、取材相手の事は事前に調べておく、取材先で勝手な行動を取らないなどごく当たり前の事だが、今の人達があまり気にしていない事も改めて常識として学び、今後の生活でもより一層気をつけようと考えた。